

付録 単元別国家試験問題 (2012～2016 年度)

● 1 栄養ケア・マネジメント

[2012-90] 栄養アセスメントに関する記述である。正しいのはどれか。1つ選べ。

- (1) 尿中に尿素排泄量は、高タンパク質食摂取で増加する。
- (2) 尿中クレアチニン排泄量を用いて、推算糸球体濾過量 (eGFR) を算出する。
- (3) 上腕筋面積は、内臓脂肪量を反映する。
- (4) 血清アルブミン値は、骨格筋量を反映する。
- (5) 血清トランスサイレチンは、静的栄養アセスメントの指標である。

[2013-90] 栄養アセスメントに関する記述である。正しいのはどれか。1つ選べ。

- (1) 骨格筋量は、血清総タンパク質値によって評価する。
- (2) 内臓脂肪蓄積量は、血清トリグリセリド値によって評価する。
- (3) 潜在性鉄欠乏状態は、血清セルロプラスミン値によって評価する。
- (4) ビタミン B₁ 欠乏は、赤血球のトランスフェラーゼ活性によって評価する。
- (5) 数日間のタンパク質代謝は、血清アルブミン値によって評価する。

[2014-90] 栄養ケア・マネジメントに関する記述である。正しいのはどれか。2つ選べ。

- (1) 栄養アセスメントの項目には、問診・観察が含まれる。
- (2) 栄養ケア計画は、管理栄養士と他職種が連携し作成する。
- (3) 短期目標は、計画全体の到達目標である。
- (4) モニタリングは、最終的な評価である。
- (5) 評価には、経済評価を含まない。

[2014-91] 鉄欠乏性貧血において上昇する検査値である。正しいのはどれか。1つ選べ。

- (1) ヘマトクリット (Ht)
- (2) 平均赤血球容積 (MCV)
- (3) ヘモグロビン (Hb)
- (4) 総鉄結合能 (TIBC)
- (5) 血清鉄

[2015-90] 栄養ケア・マネジメントの過程とその内容の組合せである。正しいのはどれか。1つ選べ。

- (1) スクリーニング——リスクによるふるいわけ
- (2) アセスメント——目標の設定
- (3) 計画——栄養状態の判定
- (4) モニタリング——事業改善の提言
- (5) フィードバック——中間の評価

[2016-84] 栄養ケア・マネジメントの手順としては、栄養スクリーニング後、**[a]**、**[b]**、**[c]**、**[d]**の順で行い、**[d]**に続き、必要に応じて再度**[a]**を行う。**[]**に入る正しいものの組み合わせはどれか。1つ選べ。

- | | a | b | c | d |
|--------------|----------|---------|---------|--------|
| (1) 栄養アセスメント | 栄養アセスメント | 栄養ケアプラン | 栄養介入 | モニタリング |
| (2) 栄養アセスメント | 栄養アセスメント | モニタリング | 栄養ケアプラン | 栄養介入 |

- | | | | |
|-------------|----------|---------|----------|
| (3) 栄養ケアプラン | 栄養アセスメント | 栄養介入 | モニタリング |
| (4) モニタリング | 栄養アセスメント | 栄養ケアプラン | 栄養介入 |
| (5) 栄養介入 | モニタリング | 栄養ケアプラン | 栄養アセスメント |

[2016-85] 静的栄養アセスメントの指標である。正しいのはどれか。1つ選べ。

- (1) 血清アルブミン
- (2) 血清トランスフェリン
- (3) 血清レチノール結合たんぱく質
- (4) 血清トランスサイレチン
- (5) ヘパプラスチンテスト

● 2 食事摂取基準の基礎的理解

[2012-91] 日本人の食事摂取基準 (2015 年版) における栄養素の指標とその目的に関する組合せである。正しいのはどれか。1つ選べ。(改変)

- (1) 推定平均必要量 (EAR) ——生活習慣病の一次予防
- (2) 耐容上限量 (UL) ——生活習慣病の二次予防
- (3) 目安量 (AI) ——生活習慣病の三次予防
- (4) 目標量 (DG) ——過剰摂取による健康障害からの回避
- (5) 推奨量 (RDA) ——摂取不足からの回避

[2012-92] 日本人の食事摂取基準 (2015 年版) の活用の基礎理論に関する記述である。正しいのはどれか。2つ選べ。(改変)

- (1) 食事制限がある対象者には、治療ガイドラインを優先して用いる。
- (2) 栄養素の摂取源として、いわゆる健康食品は含まれない。
- (3) 習慣的な摂取量の基準を示すものである。
- (4) 示された数値の信頼度は、栄養素間で同じである。
- (5) 栄養素の特性による優先順位は、存在しない。

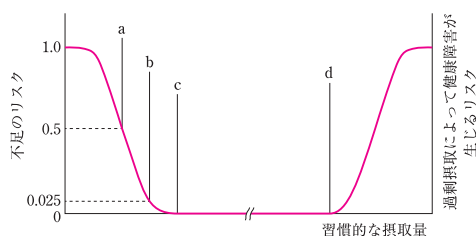
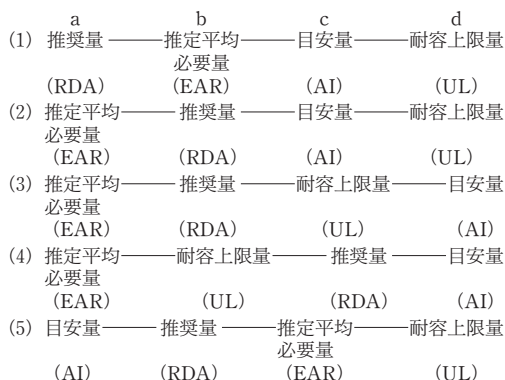
[2013-91] 日本人の食事摂取基準 (2015 年版) に関する記述である。正しいのはどれか。1つ選べ。(改変)

- (1) 推定平均必要量 (EAR) は、個人が目指す摂取量である。
- (2) 目標量 (DG) は、摂取すべき最少量である。
- (3) 目安量 (AI) は、動物実験を根拠に算定する。
- (4) 耐容上限量 (UL) は、生活習慣病の一次予防を目的として算定する。
- (5) 外挿法は、エビデンスがない性・年齢階級の指標の算出に用いる。

[2013-101] 日本人の食事摂取基準 (2015 年版) の目標量の策定根拠となった疾患と栄養素の組合せである。誤っているのはどれか。1つ選べ。(改変)

- (1) 脳出血——飽和脂肪酸
- (2) 糖尿病——n-6 系脂肪酸
- (3) 虚血性心疾患——コレステロール
- (4) 高血圧——ナトリウム
- (5) 心筋梗塞——食物繊維

[2014-92] 日本人の食事摂取基準 (2015 年版) の各指標の概念図である。正しい組合せはどれか。1つ選べ。(改変)



[2014-93] 日本人の食事摂取基準（2015年版）において、推定平均必要量（EAR）が、たんぱく質摂取量当たりで算定されたビタミンである。正しいのはどれか。1つ選べ。（改変）

- (1) ビタミン B₁
- (2) ビタミン B₆
- (3) ビタミン B₁₂
- (4) 葉酸
- (5) ビタミン C

[2015-91] 日本人の食事摂取基準（2015年版）において、「集団の50%の人が必要量を満たすと推定される摂取量」と定義された指標である。正しいのはどれか。1つ選べ。（改変）

- (1) 推定平均必要量（EAR）
- (2) 推奨量（RDA）
- (3) 目安量（AI）
- (4) 耐容上限量（UL）
- (5) 目標量（DG）

[2015-92] 日本人の食事摂取基準（2015年版）における1歳以上のカルシウムの推定平均必要量の算定式である。(a)と(b)に入る組合せとして、正しいのはどれか。1つ選べ。（改変）

[(a) + (b) + 経皮的カルシウム損失量] ÷ 見かけの吸収率

- (1) カルシウム摂取量 — 尿中カルシウム排泄量
- (2) カルシウム摂取量 — 便中カルシウム排泄量
- (3) 体内カルシウム蓄積量 — 尿中カルシウム排泄量
- (4) 体内カルシウム蓄積量 — 便中カルシウム排泄量
- (5) 尿中カルシウム排泄量 — 便中カルシウム排泄量

[2016-86] 日本人の食事摂取基準（2015年版）の策定に関する記述である。正しいのはどれか。2つ選べ。

- (1) 対象者には、高血圧や高血糖のリスクのある者は含まない。
- (2) 成人のエネルギーの指標には、BMI (kg/m²) を用いる。
- (3) 食物繊維の目標量（DG）は、1歳以上の全ての年齢区分で設定された。
- (4) 生活習慣病の重症化予防は、策定方針に含まれている。
- (5) 成人男子のナトリウム（食塩相当量）の目標量（DG）は、9.0 g/日未満である。

[2016-87] 日本人の食事摂取基準（2015年版）における水溶性ビタミンの推定平均必要量（EAR）の設定根拠に関する記述

である。正しいのはどれか。2つ選べ。

- (1) ビタミン B₁ は、脚気を予防できる最小摂取量から算定された。
- (2) ビタミン B₂ は、尿中ビタミン B₂ 排泄量が増大し始める摂取量から算定された。
- (3) ナイアシンは、ペラグラを予防できる最小摂取量から算定された。
- (4) ビタミン B₁₂ は、尿中ビタミン B₁₂ 排泄量が増大し始める摂取量から算定された。
- (5) ビタミン C は、壊血病を予防できる最小摂取量から算定された。

[2016-88] 日本人の食事摂取基準（2015年版）におけるエネルギー産生栄養素バランスに関する記述である。誤っているのはどれか。1つ選べ。

- (1) エネルギー産生栄養素バランスは、目安量（AI）として設定された。
- (2) 炭水化物のエネルギーには、アルコールを含む。
- (3) たんぱく質の下限は、推奨量（RDA）以上であると設定された。
- (4) 脂質の上限は、飽和脂肪酸の目標量（DG）を考慮して設定された。
- (5) 活用時には、基準とした値の幅を柔軟に用いる。

[2016-89] 日本人の食事摂取基準（2015年版）の科学的根拠に関する記述である。正しいのはどれか。2つ選べ。

- (1) 系統的レビューの方法を用いた。
- (2) 各々の栄養素のエビデンスレベルは、異なる。
- (3) 目安量（AI）の算定根拠は、症例報告が多い。
- (4) 耐容上限（UL）の算定根拠は、介入研究が多い。
- (5) 目標量（DG）の算定根拠となる研究の典型的な観察期間は、数か月である。

● 3 成長・発達・加齢

[2012-93] 成長・発達に伴う身体的変化に関する記述である。正しいのはどれか。1つ選べ。

- (1) 乳幼児身体発育曲線における50パーセントタイル値は、平均値を示している。
- (2) カウプ指数は、{体重(g)/身長(cm)³} × 10 で算定される。
- (3) 学童期のローレル指数による肥満判定基準は、年齢によらず同じである。
- (4) 頭囲が出生時の約1.5倍となるのは、2歳ごろである。
- (5) 体重が出生時の約3倍になるのは、4歳ごろである。

[2012-94] 成長・発達、加齢に関する記述である。正しいのはどれか。1つ選べ。

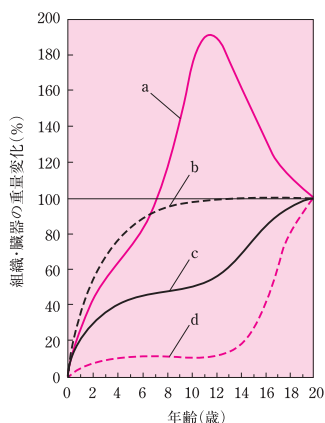
- (1) 1～2歳の基礎代謝基準値は、3～5歳より低い。
- (2) 小腸のラクターゼ活性は、離乳完了後に上昇する。
- (3) 血清IgA濃度は、生後上昇する。
- (4) 唾液分泌量は、高齢者では増加する。
- (5) 胸腺重量は成人期に最大となる。

[2013-93] 成長・発達の過程に関する記述である。正しいのはどれか。1つ選べ。

- (1) 骨格は、乳幼児期と思春期に著しく発育する。
- (2) 脳の重量は、6歳で成人の約60%になる。
- (3) 尿濃縮力は、1歳で成人と同程度になる。
- (4) 胸腺の重量は、思春期以降増加する。
- (5) 微細運動の発達は、粗大運動の発達に先行する。

[2014-94] スキャモンの発育曲線における4つの成長型の図である。正しい組合せはどれか。1つ選べ。

- | | a | b | c | d |
|----------|------|-----|-----|-----|
| (1) 神経型 | リンパ型 | 一般型 | 生殖型 | 生殖型 |
| (2) リンパ型 | 神経型 | 生殖型 | 一般型 | 一般型 |
| (3) 一般型 | リンパ型 | 生殖型 | 神経型 | 神経型 |
| (4) リンパ型 | 神経型 | 一般型 | 生殖型 | 生殖型 |
| (5) リンパ型 | 一般型 | 生殖型 | 神経型 | 神経型 |



[2015-93] 成長・発達・加齢に関する記述である。正しいのはどれか。1つ選べ。

- (1) 低出生体重児とは、出生体重が3,000 g未満の児をいう。
- (2) リンパ組織の機能的成長は、学童期で最低となる。
- (3) 1年間の体内カルシウム蓄積量は、成人期に最大となる。
- (4) 塩味閾値は、高齢者で上昇する。
- (5) 唾液分泌量は、高齢者で増加する。

[2015-94] 成人期以降の加齢に伴う身体的変化である。正しいのはどれか。1つ選べ。

- (1) 細胞内液量は、増加する。
- (2) 収縮期血圧は、上昇する。
- (3) 糸球体濾過量は、増加する。
- (4) 肺活量は、増加する。
- (5) 細胞内テロメアは、長くなる。

[2016-90] 成人期に比較して高齢期に起こる変化に関する記述である。正しいのはどれか。1つ選べ。

- (1) 消化管機能は、亢進する。
- (2) 肺活量は、増加する。
- (3) 血管抵抗は、増大する。
- (4) 免疫機能は、亢進する。
- (5) 腎血流量は、増加する。

● 4 妊娠期，授乳期

[2012-95] 妊娠期に関する記述である。正しいのはどれか。1つ選べ。

- (1) 妊娠高血圧症候群の予防には、食塩摂取量として12 g/日以下が勧められる。
- (2) 非妊娠時に比べて、インスリン抵抗性は低下する。
- (3) ビタミン B₁₂ 欠乏により、ウェルニッケ・コルサコフ症候群が起こる。
- (4) 妊娠時に最も多くみられる貧血は、巨赤芽球性貧血である。
- (5) 妊娠糖尿病は、将来糖尿病を発症するリスクが高い。

[2013-95] 妊娠母体の生理的变化に関する記述である。正しいのはどれか。1つ選べ。

- (1) 循環血液量は、減少する。
- (2) 血液凝固能は、低下する。
- (3) 腸管のカルシウム吸収率は、上昇する。
- (4) インスリンの感受性は、増大する。
- (5) 血中ヒト絨毛性ゴナドトロピン (hCG) 値は、妊娠初期よりも末期に高い。

[2014-95] 日本人の食事摂取基準 (2015 年版) における妊婦の付加量に関する記述である。正しいのはどれか。1つ選べ。(改変)

- (1) 妊娠中の最終体重増加量を6 kgとしている。
- (2) 泌乳量を考慮している。

- (3) 胎児発育に伴う蓄積量を考慮している。
- (4) エネルギーの付加量は、妊娠中期に最も多い。
- (5) カルシウムの付加量は、妊娠後期に設定されている。

[2015-95] 母乳に関する記述である。正しいのはどれか。1つ選べ。

- (1) 吸吮刺激は、オキシトシンの分泌を低下させる。
- (2) 吸吮刺激は、プロラクチンの分泌を低下させる。
- (3) 分泌型 IgA は、成熟乳より初乳に多く含まれる。
- (4) 母乳には、牛乳よりたんぱく質が多く含まれる。
- (5) 母親の摂取したアルコールは、母乳に移行しない。

[2015-96] 日本人の食事摂取基準 (2010 年版) において、妊婦の付加量が算定されている栄養素である。誤っているのはどれか。1つ選べ。

- (1) たんぱく質
- (2) 葉酸
- (3) カルシウム
- (4) 鉄
- (5) 亜鉛

[2016-91] 初乳より成熟乳に多く含まれる母乳成分である。正しいのはどれか。1つ選べ。

- (1) たんぱく質
- (2) 乳糖
- (3) IgA
- (4) ラクトフェリン
- (5) リゾチーム

[2016-92] 日本人の食事摂取基準 (2015 年版) において、妊婦に付加量が設定されている栄養素である。正しいのはどれか。2つ選べ。

- (1) ビタミン A
- (2) ナイアシン
- (3) ビタミン C
- (4) ナトリウム
- (5) カルシウム

● 5 新生児期，乳児期

[2012-96] 離乳の進め方に関する記述である。正しいのはどれか。1つ選べ。

- (1) 哺乳反射による動きが活発になってきたら、離乳食を開始する。
- (2) 離乳開始前に果汁を与えることが、栄養学的に推奨されている。
- (3) 離乳食介助では、スプーンを乳児の口の奥に入れる。
- (4) 離乳食を1日3回にするのは、生後9ヶ月ごろからである。
- (5) 離乳の完了とは、乳汁を飲んでいない状態を意味する。

[2015-97] 母乳に関する記述である。正しいのはどれか。1つ選べ。

- (1) WHO/UNICEF (1989 年) では、分娩後60分以降に母乳を与えることを勧めている。
- (2) 吸吮刺激は、プロラクチンの分泌を抑制する。
- (3) オキシトシンは、射乳を起こす。
- (4) 分泌型 IgA は、初乳より成熟乳に多く含まれている。
- (5) エネルギー量は、成熟乳より初乳が多い。

[2013-92] 乳幼児期の身体的変化に関する記述である。正しいのはどれか。1つ選べ。

- (1) 身長が出生時の2倍となるのは、2歳頃である。
- (2) 体重が出生時の2倍となるのは、1歳頃である。
- (3) 頭囲と胸囲が同じとなるのは、4歳頃である。
- (4) 乳歯が生え始めるのは、生後6か月頃である。
- (5) 大泉門が閉鎖するのは、生後1か月頃である。

[2013-96] 新生児期・乳児期の栄養ケアに関する記述である。正しいのはどれか。1つ選べ。(改変)

- (1) 日本人の食事摂取基準（2015 年版）では、人工乳の組成に基づいて目安量（AI）を策定している。
- (2) 母乳性黄疸が出現した場合には、母親のカロテン摂取量を制限する。
- (3) 二次性乳糖不耐症では、乳糖強化食品を補う。
- (4) 新生児頭蓋内出血の予防として、ビタミン E を投与する。
- (5) フェニルケトン尿症では、低フェニルアラニンミルクを用いる。

[2013-97] 離乳の進め方に関する記述である。正しいのはどれか。1 つ選べ。

- (1) 卵黄（固ゆで）は、生後 5、6 か月頃から与える。
- (2) 離乳食を 1 日 3 回にするのは、離乳開始後 1 か月頃である。
- (3) 手づかみ食べは、摂食機能の発達を促す。
- (4) 哺乳反射の減弱は、離乳完了の目安となる。
- (5) フォローアップミルクは、育児用ミルクの代替品である。

[2014-96] 乳幼児期の生理的特徴に関する記述である。正しいのはどれか。1 つ選べ。

- (1) 乳歯は、生後 3～4 か月頃より生え始める。
- (2) 運動機能の発達は、微細運動が粗大運動に先行する。
- (3) 身長 の 1 年間当たりの増加量は、年齢に伴い大きくなる。
- (4) 大泉門は、生後 6 か月頃に閉鎖する。
- (5) 体重当たりの体水分量の割合は、成人に比較して多い。

[2014-97] 離乳の進め方に関する記述である。正しいのはどれか。1 つ選べ。

- (1) 哺乳反射による動きが活発になってきたら、離乳食を開始する。
- (2) 離乳を開始して 1 か月を過ぎた頃から、離乳食は 1 日 2 回にしていく。
- (3) 舌と上あごでの押しつぶしが可能になってきたら、歯ぐきでつぶせる固さのものを与える。
- (4) 離乳の完了とは、乳汁を飲んでいない状態をさす。
- (5) 咀嚼機能は、離乳の完了より前に完成される。

[2015-97] 離乳の進め方に関する記述である。正しいのはどれか。2 つ選べ。

- (1) 離乳食は、1 日 1 回から与える。
- (2) 卵は、卵黄（固ゆで）から全卵へ進めていく。
- (3) 歯ぐきでつぶせる固さのものを与えるのは、生後 5、6 か月頃からである。
- (4) 咀嚼機能は、生後 12 ヶ月頃までに完成する。
- (5) 哺乳反射の減弱は、離乳完了の目安となる。

[2015-98] 乳幼児期の生理的特徴に関する記述である。正しいのはどれか。1 つ選べ。

- (1) 脈拍数は、年齢とともに増加する。
- (2) 体重当たりの体水分量は、成人に比較して少ない。
- (3) 新生児の生理的黄疸は、生後 2、3 日頃に出現する。
- (4) 乳歯は、生後 2、3 か月で生え始める。
- (5) 血清免疫グロブリン（IgG）値は、生後 3 か月まで上昇する。

[2016-93] 離乳の進め方に関する記述である。誤っているのはどれか。1 つ選べ。

- (1) 哺乳反射の減弱は、離乳開始の目安となる。
- (2) 離乳の開始は、生後 5、6 か月頃が適当である。
- (3) フォローアップミルクを使用する場合は、生後 9 か月以降とする。
- (4) 離乳の完了は、乳汁を飲んでいない状態を意味する。
- (5) 食事量の評価は、成長の経過で行う。

● 6 成長期

6-1 幼児期

[2012-98] 幼児期に関する記述である。正しいのはどれか。1 つ

選べ。

- (1) カウプ指数による発育状況判定では、男女差を考慮する。
- (2) 原発性（単純性）肥満より、二次性（症候性）肥満が多い。
- (3) 体重あたりのエネルギー必要量は、成人より少ない。
- (4) 体水分に占める細胞外液量の割合は、成人より高い。
- (5) 総エネルギー摂取量の 30～40% を間食から摂取する。

[2013-98] 幼児期の栄養に関する記述である。正しいのはどれか。1 つ選べ。

- (1) 体重当たりのたんぱく質維持必要量は、男児が女児より多い。
- (2) 1～2 歳児の基礎代謝基準値は、3～5 歳児より高い。
- (3) カウプ指数による肥満判定基準には、男女差がある。
- (4) 食事の脂肪エネルギー比率は、30～40% が適当である。
- (5) マラスムス（marasmus）では、浮腫がみられる。

[2014-99] 日本人の食事摂取基準（2015 年版）において、1 歳以上の目標量（DG）が策定されている項目である。正しいのはどれか。1 つ選べ。（改変）

- (1) 脂肪エネルギー比率
- (2) 飽和脂肪酸
- (3) コレステロール
- (4) 食物繊維
- (5) カリウム

6-2 学童期

[2012-99] 学童期に関する記述である。正しいものの組合せはどれか。

- a 単純性肥満より症候性肥満が多い。
 - b 最も多い貧血は、巨赤芽球性貧血である。
 - c 朝食の欠食率は、学童期が思春期より低い。
 - d 学校保健統計調査には、肥満傾向児の出現率が示されている。
- (1) a と b (2) a と c (3) a と d (4) b と c
(5) c と d

[2013-99] 学童期の栄養に関する記述である。正しいのはどれか。1 つ選べ。（改変）

- (1) むし歯（う歯）のある児童の割合は、約 80% である。
- (2) 二次性肥満は、原発性肥満より多い。
- (3) ローレル指数は、年齢と共に上昇する。
- (4) 痩身傾向児の割合は、年齢と共に増加する。
- (5) 日本人の食事摂取基準（2015 年版）の身体活動レベル（PAL）は、2 区分である。

6-3 思春期

[2013-100] 思春期の女子に関する記述である。正しいのはどれか。1 つ選べ。

- (1) 思春期発育急進現象（思春期スパート）の開始は、男子より遅い。
- (2) 卵胞刺激ホルモン（FSH）の分泌量は、思春期前に比べ低下する。
- (3) カルシウム蓄積速度は、思春期前半に最大となる。
- (4) 貧血の多くは、巨赤芽球性貧血である。
- (5) 神経性食欲不振症は、男子より少ない。

[2014-98] 思春期の女子に関する記述である。正しいのはどれか。1 つ選べ。

- (1) 思春期前に比べ、エストロゲンの分泌量は低下する。
- (2) 思春期前に比べ、卵胞刺激ホルモン（FSH）の分泌量は増加する。
- (3) 思春期前に比べ、体脂肪率は低下する。
- (4) カルシウム蓄積速度は、思春期後半に最大となる。
- (5) 思春期発育急進現象（思春期スパート）の開始時期は、男子より遅い。

[2015-99] 思春期女子に関する記述である。正しいのはどれか。1 つ選べ。

- (1) 思春期前に比べ、皮下脂肪量は減少する。
- (2) 貧血は、巨赤芽球性貧血が多い。
- (3) 年間身長増加量が最大となる時期は、女子が男子より遅い。
- (4) 急激な体重減少は、月経異常の原因となる。
- (5) 神経性食欲不振症では、過食を起こすことはない。

[2016-94] 思春期の女子の生理的特徴に関する記述である。正しいのはどれか。1つ選べ。

- (1) エストロゲンの分泌量は、低下する。
- (2) 卵胞刺激ホルモン（FSH）の分泌量は、低下する。
- (3) 黄体形成ホルモン（LH）の分泌量は、低下する。
- (4) 1日当たりのカルシウム蓄積量は、思春期前半に最大となる。
- (5) 鉄損失量は、変化しない。

● 7 成人期

7-1 成人期

[2014-100] 成人男性のメタボリックシンドロームの診断に使われる基準である。正しいのはどれか。2つ選べ。

- (1) ウエスト周囲長 ≥ 85 cm
- (2) 収縮期血圧 ≥ 140 mmHg
- (3) 空腹時血糖値 ≥ 126 mg/dL
- (4) 空腹時血清トリグリセリド値 ≥ 150 mg/dL
- (5) 血清 HDL-コレステロール値 < 35 mg/dL

7-2 閉経期

[2012-100] 更年期の女性に起こる変化に関する記述である。正しいのはどれか。1つ選べ。

- (1) エストロゲンの分泌量は増加する。
- (2) プロゲステロンの分泌量は増加する。
- (3) 卵胞刺激ホルモン（FSH）の分泌量は増加する。
- (4) 骨密度は増加する。
- (5) 血清 LDL-コレステロール値は低下する。

[2015-100] 閉経前後の生理的特徴に関する記述である。誤っているのはどれか。1つ選べ。

- (1) 体脂肪率は、増加する。
- (2) インスリン抵抗性は、低下する。
- (3) 血清 LDL-コレステロール値は、上昇する。
- (4) エストロゲンの分泌は、低下する。
- (5) 骨密度は、低下する。

● 8 高齢期

[2012-102] 高齢期の栄養に関する記述である。誤っているのはどれか。1つ選べ。

- (1) タンパク質の不足は、褥瘡のリスク因子である。
- (2) 高尿酸血症は、変形性膝関節症のリスク因子である。
- (3) 認知症は、摂食行動異常の原因となる。
- (4) うつ状態は、低栄養のリスク因子である。
- (5) 腹筋の緊張低下は、便秘の原因となる。

[2013-102] 嚥下障害・誤嚥に関する記述である。正しいのはどれか。1つ選べ。

- (1) 温度が体温程度である食事は、誤嚥しやすい。
- (2) とろみをつけたお茶は、誤嚥しやすい。
- (3) 認知症患者は、誤嚥を起こしにくい。
- (4) 誤嚥を防ぐには、食物嚥下時に顎を上げる。
- (5) きざみ食は、誤嚥を起こしにくい。

[2014-101] 成人期に比較して高齢期に起こる身体的・生理的機能の変化に関する記述である。正しいのはどれか。1つ選べ。

- (1) 唾液分泌量は、増加する。
- (2) 消化管筋層は、薄くなる。
- (3) 食道の蠕動運動は、増大する。
- (4) 血中副甲状腺ホルモン（PTH）は、低下する。
- (5) 血中コレチゾールは、上昇する。

[2014-102] 老年症候群に含まれる症候である。誤っているのはどれか。1つ選べ。

- (1) 誤嚥
- (2) うつ
- (3) 転倒
- (4) 黄疸
- (5) 褥瘡

[2015-101] 高齢者の身体機能に関する記述である。正しいのはどれか。1つ選べ。

- (1) 身体機能の個人差は、小さくなる。
- (2) 食物の胃内滞留時間は、短縮する。
- (3) 嚥下反射は、低下する。
- (4) 温冷感は、鋭敏になる。
- (5) 口渇感、鋭敏になる。

[2016-95] 高齢者の栄養管理に関する記述である。正しいのはどれか。2つ選べ。

- (1) 褥瘡の予防では、体位変換が有効である。
- (2) フレイルティ（虚弱）の予防では、除脂肪体重を減少させる。
- (3) 変形性膝関節症では、肥満がリスク因子となる。
- (4) 便秘の予防では、水分摂取を控える。
- (5) 骨粗鬆症の予防では、リンを多く含む食品を摂取する。

[2016-96] 高齢者の口腔機能と栄養に関する記述である。誤っているのはどれか。1つ選べ。

- (1) そしゃく機能に障害のある者は、誤嚥しやすい。
- (2) 水やお茶などは、誤嚥しにくい。
- (3) 酸味の強い食べ物は、誤嚥しやすい。
- (4) 凝集性は、嚥下調整食の物性指標である。
- (5) 嚥下障害は、低栄養のリスク因子である。

● 9 運動・スポーツと栄養

[2012-103] 習慣的な運動によって起こる変化である。正しいのはどれか。1つ選べ。

- (1) 最大酸素摂取量の低下
- (2) インスリン感受性の低下
- (3) 本態性高血圧の改善
- (4) サルコペニアの促進
- (5) 骨吸収の促進

[2013-103] 習慣的な有酸素運動によって起こる身体の変化に関する記述である。正しいのはどれか。1つ選べ。

- (1) 安静時心拍数は、低下する。
- (2) 安静時収縮期血圧は、上昇する。
- (3) 最大酸素摂取量は、低下する。
- (4) 血清 HDL-コレステロール値は、低下する。
- (5) 骨格筋のグルコース輸送体（GLUT 4）の機能は、低下する。

[2014-103] 習慣的な有酸素運動の効果である。正しいのはどれか。1つ選べ。

- (1) 最大酸素摂取量の低下
- (2) 血清 HDL-コレステロール値の低下
- (3) 血清トリグリセリド値の上昇
- (4) 収縮期血圧（安静時）の上昇
- (5) インスリン感受性の増大

[2015-102] 習慣的な運動の身体への影響に関する記述である。正しいのはどれか。1つ選べ。

- (1) 1回心拍出量は、減少する。
- (2) 骨密度は、低下する。
- (3) 筋肉のグルコースの取り込みは、増加する。
- (4) 血清トリグリセリド値は、上昇する。
- (5) 血清 HDL-コレステロール値は、低下する。

[2015-103] スポーツ選手の栄養に関する記述である。正しいのはどれか。2つ選べ。

- (1) 熱中症予防には、少量ずつこまめに飲水する。
- (2) 栄養補助食品によるミネラルの補給時には、耐容上限量

(UL) 以上の摂取を目指す。

- (3) 減量時には、除脂肪体重の減少を目指す。
- (4) スポーツ性貧血の管理には、たんぱく質摂取が重要である。
- (5) 筋グリコーゲンの再補充には、脂質摂取が重要である。

[2016-97] 体力の測定項目と評価項目の組合せである。正しいのはどれか。1つ選べ。

- (1) 上体起こし——敏捷性
- (2) 握力——瞬発力
- (3) 反復横とび——筋力
- (4) 20 m シャトルラン——全身持久力
- (5) 立ち幅とび——筋持久力

[2016-98] 運動時の身体への影響に関する記述である。正しいのはどれか。2つ選べ。

- (1) 筋肉のクレアチンリン酸は、短時間の運動で利用される。
- (2) 肝臓のグリコーゲンは、長時間の運動で減少する。
- (3) 糖新生は、長時間の運動で抑制される。
- (4) 速筋繊維は、有酸素運動により肥大する。
- (5) 消化管の血流量は、激しい運動で増加する。

● 10 環境と栄養

[2012-104] ストレス応答の抵抗期に関する記述である。正しいのはどれか。1つ選べ。

- (1) 副交感神経の活動は亢進する。
- (2) 尿中空素排泄量は減少する。
- (3) エネルギー必要量は増大する。
- (4) 血清ビタミンC値は上昇する。
- (5) 血中遊離脂肪酸値は低下する。

[2012-105] 特殊環境と栄養ケアに関する記述である。正しいのはどれか。1つ選べ。

- (1) 高温環境では、ナトリウムの摂取を制限する。
- (2) 低温環境では、脂肪の摂取を制限する。
- (3) 低温環境では、低タンパク食とする。
- (4) 低圧環境では、食欲が亢進する。
- (5) 無重力環境では、循環血流量が減少する。

[2013-104] 高温環境によって脱水が生じた時の身体の変化である。正しいのはどれか。2つ選べ。

- (1) 甲状腺機能は亢進する。
- (2) 循環血流量は増加する。
- (3) バソプレシンの分泌は低下する。
- (4) アルドステロンの分泌は亢進する。
- (5) 心拍数は増加する。

[2013-105] 低圧環境（高地）による身体の初期変化である。正しいのはどれか。1つ選べ。

- (1) 肺胞内酸素分圧は上昇する。
- (2) 食欲は亢進する。
- (3) ヘマトクリット値は低下する。
- (4) 口渇感は低下する。
- (5) 呼吸数は低下する。

[2014-104] 特殊環境と身体への影響の組合せである。正しいのはどれか。1つ選べ。

- (1) 高温環境——熱産生の増加
- (2) 低温環境——熱けいれん
- (3) 高圧環境——酸素中毒
- (4) 低圧環境——肺換気量の低下
- (5) 無重力環境——骨量の増加

[2014-105] ストレスの汎（全身）適応症候群に関する記述である。正しいのはどれか。1つ選べ。

- (1) 警告反応期のショック相では、血糖値が上昇する。
- (2) 警告反応期のショック相では、血圧が低下する。
- (3) 警告反応期の反ショック相では、体温が低下する。
- (4) 抵抗期では、新たなストレスが加わると抵抗力は強くなる。
- (5) 疲は期では、ストレスに対して生体が適応力を獲得し

ている。

[2015-104] ストレス応答の抵抗期に関する記述である。正しいのはどれか。

- (1) 副腎皮質刺激ホルモン（ACTH）の分泌は、低下する。
- (2) 交感神経の活動は、減弱する。
- (3) エネルギー代謝は、抑制される。
- (4) 遊離脂肪酸の生成は、増加する。
- (5) 尿中空素排泄量は、減少する。

[2015-105] 無重力環境（宇宙空間）における身体変化に関する記述である。正しいのはどれか1つ選べ。

- (1) 食欲は、増加する。
- (2) 尿中カルシウム排泄量は、増加する。
- (3) 筋肉量は、増加する。
- (4) 循環血流量は、増加する。
- (5) 血液の分布は、下肢方向にシフトする。

[2016-99] 高温環境に曝露されたときに起こる身体変化に関する記述である。正しいのはどれか。1つ選べ。

- (1) 皮膚血管は、収縮する。
- (2) 換気量は、低下する。
- (3) 熱産生は、亢進する。
- (4) 腎臓でのナトリウムの再吸収は、増加する。
- (5) バソプレシンの分泌は、低下する。

2015-104 : (2), (4), 2015-105 : (4), (5), 2013-105 : (4), (5), 2014-104 : (3), (3), 2014-105 : (2), (2)	10 環境と栄養	2012-104 : (3), (3), 2012-105 : (5), (5), 2013-104 : (4), (4), 2016-98 : (1), (1), (2), (2)
2014-103 : (5), 2015-102 : (3), 2015-103 : (1), (1), 2012-103 : (3), 2013-103 : (1), (1), 2016-96 : (2), (2)	9 運動・スポーツ栄養	2012-102 : (4), 2015-101 : (3), (3), 2016-95 : (1), (1), (3), (3)
2014-102 : (4), 2015-101 : (3), 2016-95 : (1), (1), (3), (3)	8 高齢期	2012-102 : (2), 2013-102 : (1), 2014-101 : (2), (2)
2012-100 : (3), 2015-100 : (1), (4), (4)	7-2 閉経期	2014-100 : (1), (1), (4), (4)
2016-94 : (4), (4)	7-1 成人期	2013-100 : (3), 2014-98 : (2), (2), 2015-99 : (4), (4)
2013-100 : (3), 2014-98 : (2), (2), 2015-99 : (4), (4)	6-3 思春期	2012-99 : (5), 2013-99 : (4), (4), 2013-100 : (3), (3)
2012-98 : (4), 2013-98 : (2), (2), 2014-99 : (1), (1)	6-2 学童期	2012-98 : (4), 2013-98 : (2), (2), 2014-99 : (1), (1)
2016-93 : (4), (4)	6-1 幼児期	2012-92 : (4), 2013-92 : (5), (5), 2014-96 : (3), (3), 2015-97 : (2), (2), 2015-98 : (3), (3)
2014-97 : (2), 2015-97 : (1), (1), (2), (2)	5 新生児期, 乳児期	2012-96 : (4), (4), 2012-97 : (3), (3), 2016-92 : (1), (1), (3), (3)
2015-95 : (3), 2016-96 : (3), 2013-95 : (5), (5), 2014-95 : (3), (3)	4 妊娠期, 授乳期	2012-95 : (5), 2013-95 : (3), 2014-95 : (3), 2015-94 : (4), 2015-93 : (4), (2), (2)
2014-94 : (4), 2015-93 : (3), 2012-94 : (3), 2013-93 : (3), 2016-89 : (2), (2)	3 成長・発達・加齢	2012-87 : (2), (2), 2016-88 : (1), (1), 2016-89 : (2), (2), 2015-91 : (1), 2015-92 : (3), 2016-86 : (2), (2), 2014-92 : (2), 2014-91 : (5), 2012-92 : (1), (1)
2016-84 : (1), 2016-85 : (1), 2015-90 : (4), (4), 2014-91 : (2), (2), 2013-90 : (1), (1), 2012-90 : (1), 2013-90 : (4), (4)	1 栄養ケア・オナジメント	